

テーマ

日韓における自閉症スペクトラムに関するアセスメントツール開発

研究者

井上雅彦(鳥取大学)

概要

自閉症に関する早期発見と治療は医療・福祉・教育の各分野で国際的に大きな課題となっている。本研究では我が国で開発されたPARS(自閉症評定尺度)を元に、韓国において自閉症のデータを収集し、韓国版の作成を行い、研究を通して交流を深める中で鳥取県との友好を深め国際貢献を推進する。

研究内容

1. はじめに

自閉症に関する早期発見と治療は、医療・福祉・教育の各分野で国際的に大きな課題となっている。特に北東アジアにおいては、自閉症への早期発見のためのツールは不足しているのが現状である。我が国で開発されたPARS(自閉症評定尺度)は、親からのインタビューを元に子どもの自閉症の支援ニーズの有無をアセスメントするツールであり、学術的にも優れており、厚労省も推奨しているものである。本研究では、PARS韓国版を作成するための基礎的研究として、韓国研究者と協力し、韓国における自閉症のデータを収集し分析することで、韓国での標準化に向けた基礎データを得ることを目的とした。

2. 方法

1) PARSE韓国版の翻訳

PARSは幼児期版、児童期版、青年・成人期版の3種があり、本研究ではこの中で幼児期版の翻訳を行った。日本に留学経験があり、障害児教育に関する学位を持つ韓国の大学教員が翻訳を行い、その訳を日本語に直したバックトランスレーションを日本語版PARS開発者2名で確認修正作業を行い、韓国版を作成した。

2)韓国での実施者に対するトレーニング講座の実施

日本からPARS開発者でもある研究代表者と分担研究者の2名が、韓国においてデータ収集を行う実施者に向けてトレーニング講座を開催した。

3)データ収集

韓国において、6歳以下の子どもを持つ親(自閉症のある子どもを持つ親、自閉症以外の臨床群の親、定型発達の子どもの親)全53名を対象に韓国版PARSを実施した。

3. 結果と考察

自閉症群と非自閉症臨床群、定型発達群のPARS得点のデータ比較において、各群の平均値はそれぞれ46.73、36.55、8.71であり、自閉症群が高い傾向にあった。分散分析の結果、群間において、ピーク評定、現在評定ともに有意な群間差が得られた(ピーク評定($F(2,51)=23.1473, p<.001$) 現在評定($F(2,51)=23.2031, p<.001$)。tukey法の多重比較の結果、自閉症群と非自閉症臨床群がともに定型発達群に比べて有意に高い結果を得た。

本研究の結果、韓国版PARSの開発と実施に関して一定の成果を得、研究交流を通して鳥取県との友好を深めることができた。また今回、韓国の自閉症支援においてPARSの開発についての強い現場や保護者のニーズがあることが確認された。本研究により、韓国自国での研究資金調達と研究チームの立ち上げなどの動きも起こっており、北東アジアに対する研究交流と国際貢献という目的は十分に達成されたと考えられる。

応用分野

連絡先

鳥取大学 教授 井上雅彦

連絡先(0859-38-6410 masahiko-inoue@med.tottri-u.ac.jp号)